

学 校 情 報

情報提供等への取組に関するガイドライン

- ① 学校の概要
 - 《 学校の概要 》
 - 《 学校の沿革 》
 - 《 学校の特色 》
 - 《 運営方針 》

- ② 学校の教育目標及び計画
 - 《 学校の教育理念、教育目標 》
 - 《 教育指導計画 》
 - 《 その他の諸活動に関する計画 》
 - 《 成績評価 》
 - 《 卒業認定 》
 - 《 定員数 》
 - 《 カリキュラム 》
 - 《 学習の成果として取得を目指す資格等 》
 - 《 卒業者数 》
 - 《 主な就職先 》

- ③ 教職員
 - 《 教職員数 》
 - 《 教職員の組織及び専門性 》

- ④ キャリア教育（就職支援の取り組み）

- ⑤ 教育活動

- ⑥ 生徒指導・生活指導
 - 《 方針・基準 》

- ⑦ 学生募集・学生の納付金
 - 《 学費 》

- ⑧ 学校の財務
 - 《 資金収支計算書 》
 - 《 事業活動収支計算書 》
 - 《 損益計算書 》
 - 《 貸借対照表 》
 - 《 財産目録 》
 - 《 監事監査報告書 》

- ⑨ 学校評価
 - 《 自己点検結果 1 》
 - 《 自己点検結果 2 》
 - 《 自己点検結果 3 》
 - 《 自己点検結果 4 》
 - 《 学校関係者評価結果 1 》
 - 《 学校関係者評価結果 2 》
 - 《 学校関係者評価結果 3 》

- ⑩ 事業報告・その他
 - 《 事業報告書 》
 - 《 職業実践専門課程認定学科 》
 - 《 理事・役員名簿 》

専門学校福岡ホスピタリティ・アカデミー 学校情報

① 学校の概要

【学校の概要】

校長名：仮屋 睦幸

所在地：812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-8-24

連絡先：092-474-9231（代表）

設置者名：学校法人 21世紀アカデミア

代表者名：田坂 広志

【学校の沿革】

設立認可年月日 1967年1月12日

設置認可年月日 1983年3月29日

【学校の特色】

職業実践的な教育として全学科インターンシップによる現場学習を行っている。学生への就職活動の支援として学校独自に企業を招聘し業界研究を行ない学生の業界、仕事理解を推進している。本学園内に隣接する3校の姉妹校を有し、お互いの学校の専門性を活かしながらコラボレーションを通じて、コミュニケーション能力の向上がはかれる企業環境を自然に創出している。東京・大阪・名古屋にある姉妹校とも連携し、イベントやコンテストを開催している。

また、福岡市の経済の中心地であり、九州の交通の拠点でもある博多駅前に立地も特色として上げられる。JRを始めバス等のアクセスの良さは通学の利便性はもちろん、就職活動にも効果を発揮している。

【運営方針】

立案としては、教育に関わる学校計画は教育部門及び学生募集の「学務部」、学園全体の予算計画を「事務局」、から持ち寄り、意見を交えた上で出された方針を基に、本学園の理事会での審議を受け、意思決定されたものが学校運営に活かされています。運営方針については各年度当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知されます。運営方針に沿った各業務や教育活動が遂行され、報告、随時見直し検討がなされていきます。

② 学校の教育目標及び計画

【学校の教育理念、教育目標】

専門学校福岡ホスピタリティ・アカデミー（以下、本校という）は、「学校法人21世紀アカデメイア」（以下本学園という）理事長 田坂広志の「大学も専門学校も越える新たな学びの場」において、実社会で活躍する人材育成に則り、ホテル・鉄道・旅行・エアライン・ブライダル・スイーツ&カフェ・観光ビジネス・韓国語等の教育を行っている総合観光サービス専門学校である。

本学園の教育理念では「卒業生に希望する企業や業界に就職できることではなく、活躍する人材になり、人生を拓くことを願って実社会に必要な①ファイブスター・プロフェッショナル②クロスオーバー・エキスパート③異文化グローバリストという3つの人材への成長を支えるカリキュラムを準備し、「大学も専門学校も越える新たな学びの場」を目指し進化する。

【教育指導計画】

本校の指導方針である「大学も専門学校も越える新たな学びの場」のもと、専門知識（エキスパート・スキル）だけではなく、「5つのプロフェッショナル力」を身につけることができる実践的なカリキュラム形成を行なっている。

- 1、 創造的コミュニケーション力
- 2、 異業種クロスオーバー力
- 3、 創発的プロジェクト力
- 4、 戦略的イノベーション力
- 5、 異文化グローバリスト力

【その他の諸活動に関する計画】

- 学校安全計画 各教室に火元責任者を設置、全校生徒での避難訓練を実施
- 「開かれた学校づくりを推進し、家庭・地域との信頼関係を深め、保護者対応の機会を増やし、学校教育活動への理解と協力を得る。」そのための活動として「保護者会、保護者対象の授業見学会や企業対象発表会、地域とのつながりを持ったボランティア活動への積極的な参加」を促している。
- 学校保健計画
 - レントゲン検診年1回実施。
 - カウンセラーを配置し学生の心のケアを実施している。
 - 全学生の60%から70%がサービス介助士の資格試験を取得している。

【成績評価】

成績は前期・後期の終了前に、試験・課題・実技試験・出席状況・授業態度などを考慮し、授業担当者が定められた各教科の評価ポイントに基づき成績を判定する。その後、学科長による授業担当者の評価確認を行い、最終的には学校長の確認の元で単位認定を行う。成績はオリエンテーション時に学生本人へ公表し、保護者へ郵送する。評価が悪い学生には担任教諭より指導がなされ補講・補修を行っている。

成績は以下のような5段階評価に基づく。

A=優秀 B=良い C=標準 D=不可(出席50%以上) E=不可(出席50%未満)

GAP 評価制度による客観的な評価については学内で行う。

ポイント変換：A=4 B=3 C=2 D=1 E=0

算出方法：(全教科の評価ポイントの合計) ÷ 総単位数 (履修登録単位の総数)

【卒業認定】

卒業の認定方針については年度開始前に行われるカリキュラム会議にて、各学科の特性、業界で必要とされる知識やスキルを踏まえ卒業要件が決定される。

- ・卒業規定として学則に定める履修時間(卒業時1,920時数)を履修していること
- ・94単位以上を取得していること
- ・学費を全納していること

なお、これらの卒業条件については学生と保護者へ入学時オリエンテーションにて案内している。

【定員数】

全学科2年課程 昼間部のみ

学科	修業年限	入学定員	総定員
ブライダル学科	2年昼	20人	40人
ホテル学科	2年昼	30人	60人
鉄道サービス学科	2年昼	40人	80人
旅行学科	2年昼	20人	40人
エアライン学科	2年昼	30人	60人
スイーツ&カフェ学科	2年昼	20人	40人
観光ビジネス学科	2年昼	0人	20人
IT観光学科	2年昼	0人	20人
韓国語学科	2年昼	80人	120人

【カリキュラム】

カリキュラムについては、校長、キャリア長、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また、毎年見直しを行い、業界の動向に沿った形で改編し業界の求める人材ニーズに応えられる学生を育成している。

キャリア教育科目を1年次より導入し就職に対する意識の高揚を図っている。

また、学科目標業界のセミナーを年に数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。

別表第1-1

観光専門課程 エアライン学科

必修・選択 の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32							32	2
	PC演習			2	32					32	2
	航空業界研究	2	32							32	2
	航空企業研究			2	32					32	2
	エアライン概論	2	32							32	2
	エアラインプレゼンテーション	2	32	2	32					64	4
	エアライン接客基礎	2	32							32	2
	エアライン接客演習			2	32					32	2
	マナー・プロトコール	2	32	2	32					64	4
	サービス介助士	2	32							32	2
	英語リスニング基礎	2	32	2	32					64	4
	国際文化研究	2	32	2	32					64	4
	中国語HSK検定初級	2	32	2	32					64	4
選択	INFINI基礎			2	32					32	2
	INFINI演習					2	32			32	2
	時事問題研究					2	32	2	32	64	4
	サービス接遇					2	32	2	32	64	4
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	キャリアナビゲーション					2	32			32	2
	トレーニングワーク			2	32	2	32			64	4
	CA・GS実践					2	32	2	32	64	4
	企画・プレゼンテーション					2	32	2	32	64	4
	エアライン研究					2	32			32	2
	英語リスニング					2	32	2	32	64	4
	英会話技法					2	32			32	2
	中国語HSK中級					2	32			32	2
	社会システム概論							2	32	32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	エアライン接客サービスワーク							2	32	32	2
	ビジネスワーク							2	32	32	2
	英会話ワーク							2	32	32	2
	センスアップセミナー							2	32	32	2
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数	24	384	20	320	0	0	0	0	704	44	
必修選択科目履修時数	0	0	0	0	0	0	0	0	64	0	
選択科目履修時数	6	96	10	160	30	480	30	480	1632	76	
卒業に必要な総履修時数	30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-2

観光専門課程 鉄道サービス学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必修	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32							32	2
	PC演習			2	32					32	2
	鉄道業界研究	2	32							32	2
	鉄道企業研究			2	32					32	2
	サービス介助士	2	32							32	2
	サービス介助士ワーク			2	32					32	2
	国内地理A	2	32							32	2
	国内地理B	2	32							32	2
	国内地理C	2	32							32	2
	国内地理D	2	32							32	2
	旅行業法	2	32							32	2
	旅行業約款	2	32							32	2
	各種約款	2	32							32	2
	国内運賃・料金	2	32							32	2
	JR規約	2	32							32	2
	鉄道業務基礎			4	64					64	4
鉄道接客基礎			4	64					64	4	
国内観光地理			2	32					32	2	
鉄道教養基礎			2	32					32	2	
鉄道アナウンス基礎			2	32					32	2	
選択	鉄道ゼミナール	2	32	2	32					64	4
	鉄道旅行企画基礎	2	32							32	2
	鉄道旅行企画演習			2	32					32	2
	国内旅行業務セミナー	4	64							64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	サービス接遇					2	32	2	32	64	4
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	キャリアナビゲーション					2	32			32	2
	鉄道研究					2	32	2	32	64	4
	鉄道教養					2	32	2	32	64	4
	鉄道英会話基礎					2	32			32	2
	鉄道英会話演習							2	32	32	2
	鉄道業務					4	64	2	32	96	6
	鉄道ゼミナール					4	64	4	64	128	8
	国内観光資源					2	32	2	32	64	4
	グローバル					2	32	2	32	64	4
	社会システム概論							2	32	32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16	
企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32	
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数	28	448	24	384	0	0	0	0	832	52	
必修選択科目履修時数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
選択科目履修時数	2	32	6	96	30	480	30	480	1088	68	
卒業に必要な総履修時数	30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-3

観光専門課程 ホテル学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必須	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32							32	2
	PC演習			2	32					32	2
	ホテル業界研究	2	32							32	2
	ホテル企業研究			2	32					32	2
	サービス介助士	2	32							32	2
	ホテル英会話	2	32	2	32					64	4
	TOEICセミナー	2	32	2	32					64	4
	マナー・プロトコル基礎	2	32							32	2
	ホテル概論	2	32							32	2
	フロントサービス基礎	2	32							32	2
	ホテル実践			2	32					32	2
	ホテルビジネス実務			2	32					32	2
	フロントサービス演習			2	32					32	2
	宿泊業務	2	32	2	32					64	4
料飲業務基礎	2	32	2	32					64	4	
洗濯必修	レストランサービス演習	4	64	4	64					128	8
	バーテンダー演習	4	64	4	64					128	8
洗濯	トレーニング			2	32	2	32	2	32	96	6
	時事問題研究					2	32			32	2
	サービス接遇					2	32	2	32	64	4
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	キャリアナビゲーション					2	32			32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	ホテル英会話					2	32	2	32	64	4
	ホテルマネジメント					2	32			32	2
	MY HOTEL 企画					2	32			32	2
	HRSセミナー					2	32	2	32	64	4
	レストラン運営演習					4	64			64	4
	バーテンダーワーク					4	64	4	64	128	8
	社会システム概論							2	32	32	2
	ホテルビジネス実務スキル							2	32	32	2
	ホテルセールス							2	32	32	2
	パンケット運営演習							4	64	64	4
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32	
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		24	384	22	352	0	0	0	0	736	46
必修選択科目履修時数		4	64	4	64	0	0	0	0	128	8
選択科目履修時数		2	32	4	64	30	480	30	480	1056	66
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択科目として「レストランサービス演習」もしくは「バーテンダー演習」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-4

観光専門課程 プライダル学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32	2	32					64	4
	プライダル業界研究	2	32							32	2
	プライダル企業研究			2	32					32	2
	パーソナルカラー基礎	2	32							32	2
	パーソナルカラー演習			2	32					32	2
	プレゼンテーション基礎	2	32							32	2
	プレゼンテーション演習			2	32					32	2
	センスアップ	2	32	2	32					64	4
	プライダル概論	2	32							32	2
	プライダル接客基礎	4	64	4	64					128	8
	料飲サービス	2	32	2	32					64	4
	ウェディングプランナー基礎	2	32	2	32					64	4
洗濯必修	ウェディングプランニング	2	32	2	32					64	4
	ドレスコーディネーター	2	32	2	32					64	4
	プライダルセールス	2	32	2	32					64	4
	和装着付作法	2	32	2	32					64	4
洗濯	プライダルMC	2	32	2	32					64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	サービス接遇					2	32	2	32	64	4
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	キャリアナビゲーション					2	32			32	2
	ヘアメイク	2	32	2	32					64	4
	プライダルアイテム					2	32			32	2
	ウェディング空間演出					4	64	4	64	128	8
	プライダルイベント					4	64	4	64	128	8
	パーソナルカラー演習					2	32	2	32	64	4
	プライダルカラーコンサルタント					2	32	2	32	64	4
	ドレスコーディネート技法					4	64	4	64	128	8
	プライダル接客技法					4	64	4	64	128	8
	社会システム概論							2	32	32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	プライダルゼミナール							2	32	32	2
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32	
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		24	384	22	352	0	0	0	0	736	46
必修選択科目履修時数		4	64	4	64	0	0	0	0	128	8
選択科目履修時数		2	32	4	64	30	480	30	480	1056	66
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択として「ウェディングプランニング」もしくは「ドレスコーディネーター」のいずれかを選択すること

※必修選択として「プライダルセールス」もしくは「和装着付」のいずれかを選択すること

※「ウェディングプランニング」「和装着付作法」は職業実践専門課程の教科目

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-5

観光専門課程 フードクリエイト学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必修	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32	2	32					64	4
	飲食業界研究	2	32							32	2
	製菓基礎	6	96							96	6
	製パン基礎	6	96							96	6
	衛生学	2	32							32	2
	飲食店舗研究			2	32					32	2
	製菓演習			6	96					96	6
	製パン演習			6	96					96	6
	栄養学			2	32					32	2
	和菓子基礎	4	64	4	64					128	8
選択必修	バリスタ基礎	4	64	4	64					128	8
	フードクリエイト基礎	4	64	4	64					128	8
選択	時事問題研究					2	32			32	2
	サービス接遇スキル					2	32			32	2
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	キャリアナビゲーション					2	32			32	2
	スイーツクリエイティブワークス					6	64	6	64	128	8
	ブランジュスキル					6	64			64	4
	カフェフード開発基礎					4	64			64	4
	カフェドリンク開発基礎					4	64			64	4
	ショップマーケティング基礎					2	32			32	2
	和菓子技法					4	64			64	4
	和菓子演習							4	64	64	4
	社会システム概論							2	32	32	2
	サービス接遇ワーク							2	32	32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	ブランジュワーク							6	96	96	6
	カフェフード開発演習							4	64	64	4
	カフェドリンク開発演習							4	64	64	4
	ショップマネジメント基礎							4	64	64	4
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32
	企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		26	416	26	416	0	0	0	0	832	52
必修選択科目履修時数		4	64	4	64	0	0	0	0	128	8
選択科目履修時数		0	0	0	0	30	480	30	480	960	60
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択科目として「バリスタ基礎」もしくは「フードクリエイト基礎」のいずれかを選択する事

※「製パン基礎」は職業実践専門課程の教科目

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-6

観光専門課程 旅行学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)		
		前期		後期		前期		後期				
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数			
必修	一般教養	2	32								32	2
	一般常識			2	32						32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32								32	2
	ホスピタリティ演習			2	32						32	2
	PC基礎	2	32	2	32						64	4
	国内地理A	2	32								32	2
	国内地理B	2	32								32	2
	国内地理C	2	32								32	2
	国内地理D	2	32								32	2
	旅行業法	2	32								32	2
	旅行業約款	2	32								32	2
	各種約款	2	32								32	2
	国内運賃・料金	2	32								32	2
	JR規約	2	32								32	2
	旅行業務基礎			2	32						32	2
	旅行英会話基礎			2	32						32	2
	国内旅行企画基礎			4	64						64	4
INFINI基礎			2	32						32	2	
選択必修	国内旅行業務セミナー	4	64								64	4
	映像制作基礎	2	32								32	2
	マーケティング基礎	2	32								32	2
選択	旅行概論	2	32								32	2
	地域創生プロジェクト	4	64	4	64						128	8
	旅行業界研究	2	32								32	2
	旅行企業研究			2	32						32	2
	総合旅行業務			6	96	6	96				192	12
	配信システム			2	32						32	2
	SNS基礎			2	32						32	2
	HP制作基礎			2	32						32	2
	時事問題研究					2	32				32	2
	サービス接遇					2	32	2	32		64	4
	PCスキル					2	32				32	2
	PCワーク							2	32		32	2
	キャリアナビゲーション					2	32				32	2
	プレゼンテーション					2	32				32	2
	グローバル					2	32	2	32		64	4
	旅行接客業務					2	32	2	32		64	4
	地域創生プロジェクト			4	64	4	64				128	8
	旅行ゼミナール			4	64	4	64				128	8
	配信システム					2	32	2	32		64	4
	SNSスキル					2	32	2	32		64	4
	HP制作					2	32	2	32		64	4
	社会システム概論							2	32		32	2
	キャリアデザイン							2	32		32	2
	海外観光資源スキル							2	32		32	2
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32		128	8
選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64		256	16	
企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128		512	32	
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240		960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240		960	60	
短期留学										時数による		
必修科目履修時数		24	384	16	256	0	0	0	0	640	40	
必修選択科目履修時数		4	64	0	0	0	0	0	0	64	4	
選択科目履修時数		2	32	14	224	30	480	30	480	1216	76	
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※必修選択科目として「国内旅行業務セミナー」もしくは「映像制作基礎」「マーケティング基礎」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-7

観光専門課程 韓国語学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必修	一般教養	2	32							32	2
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ基礎	2	32							32	2
	ホスピタリティ演習			2	32					32	2
	PC基礎	2	32							32	2
	PC演習			2	32					32	2
	業界研究	2	32							32	2
	企業研究			2	32					32	2
	マナー・プロトコル基礎	2	32							32	2
	マナー・プロトコル演習			2	32					32	2
	韓国語文法	2	32	2	32					64	4
	韓国語基礎	2	32	2	32					64	4
	韓国語会話	2	32	2	32					64	4
	TOPIK-A	2	32	2	32					64	4
	TOPIK-B	2	32	2	32					64	4
TOPIK-C	2	32	2	32					64	4	
選択	国際文化英会話	2	32	2	32					64	4
	グローバル	2	32	2	32					64	4
	韓国ゼミナール	2	32	2	32					64	4
	キャリアナビゲーション					2	32	2	32	64	4
	アカデミックスキル							2	32	32	2
	キャリアデザイン							2	32	32	2
	時事問題研究					2	32			32	2
	サービス接遇					2	32	2	32	64	4
	PCスキル					2	32			32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	ビジネス韓国語					2	32	2	32	64	4
	韓国語演習A					2	32	2	32	64	4
	韓国語演習B					2	32	2	32	64	4
	韓国語演習C					2	32	2	32	64	4
	韓国語会話					2	32	2	32	64	4
	トレーニングワーク					2	32	2	32	64	4
	韓国ゼミナール					4	64	2	32	96	6
	接客サービス基礎					2	32			32	2
	接客サービス演習							2	32	32	2
	国際文化英会話					2	32	2	32	64	4
	韓国文化研究					2	32	2	32	64	4
	プレゼンテーション					2	32	2	32	64	4
	ビジネス実務					2	32	2	32	64	4
	社会システム概論							2	32	32	2
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	企業研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32
企業研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
韓国留学研修	8	128	8	128	8	128	8	128	512	32	
韓国留学研修	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		22	352	22	352	0	0	0	0	704	44
必修選択科目履修時数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
選択科目履修時数		8	128	8	128	30	480	30	480	1216	76
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

【学習の成果として取得を目指す資格、検定等】

全学科共通	サービス接客検定	実務技能検定協会
	ビジネス能力検定	職業教育・キャリア教育財団
	WERD文書処理技能検定試験	サーティファイ
	Excel表計算技能検定試験	サーティファイ
	秘書検定	実務技能検定協会
	ビジネス電話検定	実務技能検定協会
ブライダル学科	アシスタントブライダルコーディネーター	日本ブライダル文化振興協会
	パーソナルカラーコンサルタント	日本カラーミーアシーズン社
ホテル学科	レストランサービス技能検定	日本ホテルレストランサービス技能協会
	ホテルビジネス実務検定	日本ホテル教育センター
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会
鉄道サービス学科	国内旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	総合旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	サービス介助士	日本ケアフィット共育機構
	旅行地理検定	旅行地理協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
旅行学科	国内旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	総合旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	旅行地理検定	旅行地理協会
	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
エアライン学科	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会
	サービス介助士	日本ケアフィット共育機構
フードクリエイティブ学科	食品衛生責任者	福岡県食品衛生協会
	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
韓国語学科	韓国語能力試験 (TOPIK)	韓国語教育財団
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会

【卒業者数】

○ (令和6年3月) 卒業者 153人 就職者数 130人 進学者 5人

【主な就職先】

○ホテル、旅館、レストラン、結婚式場、ドレスショップ、ブライダル映像、ブライダルメイク、鉄道会社、鉄道関連会社、航空会社、航空関連会社、旅行会社、旅行関連会社、洋菓子店、パン製造販売店、カフェ店舗など

企業名はホームページに記載 (<http://www.kyukan.ac.jp/employ.html>)

③ 教職員

【教職員数】

	専任	兼任	合計
教員	15人	36人	51人
職員	5人	0人	5人

【教職員の組織及び専門性】

教員については担当する学科、専攻、担当科目に応じて専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し教員のレベルアップを図っている。それらに加えて、教員間の情報共有やコミュニケーションを円滑にする為に定期的に教員ミーティングプログラムを実施している。

また、校長、キャリア長、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし授業改善に利用している。

④ キャリア教育（就職支援の取り組み）

- 1年時から就職指導の授業による指導（業界研究、面接指導、履歴書添削など）
- 就職課によるサポート 就職模擬面接の希望制による随時実施
- 就職指導室の活用 資料閲覧、就職課スタッフによる進路相談の対応
- 学校独自で企業を招聘し就職業界セミナーを実施し、企業、業界理解を推進
- 各学科による業界人、卒業生による講話の実施
- 全学科職業実践的な教育としてインターンシップの実施による職場研修の実施
- 時間割の空きを利用し姉妹校の検定対策授業や語学などを選択する事が可能

⑤ 教育活動

4月	入学式／新入生研修
5月	講話
6月	レントゲン検診
7月	
8月	夏季休暇
9月	試験期間／ボランティア活動
10月	富士五湖サミット／企業研修
11月	資格、検定受験期／学校主催業界 EXPO
12月	冬季休暇
1月	海外研修旅行
2月	進級制作発表会／保護者会／試験期間
3月	卒業式

⑥ 生徒指導・生活指導

【方針・基準】

- 入学時オリエンテーションにて「学習の手引き」に添って伝達、指導を行っている。（受講上の注意、学園生活上の注意、通学手段、アルバイト時間、指導、休暇、欠席・遅刻連絡方法、単位取得、卒業の規定、研修旅行、教育イベントスケジュールなど）
- クラス担任制：担任により学生、保護者からの相談に対応している。
- 学期ごとに学生アンケートを取り学びの状況、環境などを把握し、改善を図っている。
- カウンセラーを置き学生の心のケアを行っている。
- 保護者会の実施 年1回～2回 学習状況、アルバイト、進路相談など保護者と連携を取り学生の指導、支援を行っている。

⑦ 学生募集・学生の納付金

本校の学生募集活動では、学習内容・教育成果・卒業後の進路など正しい情報を分かりやすく伝えることに重点を置いております。より理解を深めてもらった上で進路の決定をしてもらうため、オープンキャンパスや体験入学、説明会を多く開催いたしております。進学 mismatches を防ぐよう、保護者の来校と体験入学への複数回の参加を勧めております。さらに高等学校の先生に授業の様子を見て頂く見学会を頻繁に実施し、在校生との面談などを含めて教育の実際を理解いただくよう努めております。

1. 学生納付金

単位：円

1年次学費（納入時期／前期合格通知後 指定日・後期2024年9月上旬 予定）						
項目	入学金	設備費 (年額)	授業料 (前期)	校友会費 団体保険料	授業料 (後期)	1年次 学費合計
全学科	100,000	239,000	330,000	10,000 2,000	330,000	1,011,000

2年次学費（納入時期／前期 2025年2月上旬・後期 2025年9月上旬 予定）					
項目	設備費 (年額)	授業料 (前期)	団体保険料	授業料 (後期)	2年次 学費合計
全学科	239,000	330,000	2,000	330,000	901,000

2. 各種奨学金等

① 校友会特別奨学生

- ご家族（2等親以内）に卒業生がおられる場合2人目以降の入学金を全学免除します。
- 兄弟・姉妹で同時に入学される場合は、2人分の入学金200,000円全額免除します。
- ② 日本学生支援機構の奨学金制度（第一種奨学金、第二種奨学金、給付型）
- ③ 新聞奨学生制度（毎日新聞育英会、西部読売育英奨学会）

3. 学生の受け入れ方法

- A0入学 ●推薦入学 ●指定校推薦入学 ●一般入学 ●併願入学

(8) 学校の財務

資金収支計算書

令和5年4月1日 から
令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 令和5年度	
学生生徒等納付金収入	12,118,867,161	
手数料収入	139,169,360	
付随事業・収益事業収入	675,625,315	
雑収入	14,716,958	
借入金等収入	0	
前受金収入	9,830,657,645	
その他の収入	1,400,318,849	
資金収入調整勘定	-9,873,642,198	
前年度繰越支払資金	16,793,093,198	
収入の部合計	31,844,859,689	
人件費支出	3,559,738,002	
教育研究経費支出	2,535,145,134	
管理経費支出	3,107,915,567	
借入金等利息支出	569,748,787	
借入金等返済支出	600,000,000	
施設関係支出	861,513,882	
設備関係支出	554,368,772	
資産運用支出	0	
その他の支出	2,304,634,679	
資金支出調整勘定	-1,091,242,771	
翌年度繰越支払資金	18,843,037,637	
支出の部合計	31,844,859,689	

事業活動収支計算書

令和5年4月1日 から
令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 (令和5年度)		
	予算	決算	差異
教育活動収支			
教育活動収入	13,484,390,000	13,018,700,957	465,689,043
学生生徒等納付金	12,524,085,000	12,118,867,161	405,217,839
手数料	146,688,000	139,169,360	7,518,640
その他	813,617,000	760,664,436	52,952,564
教育活動支出	10,848,226,000	10,312,901,490	535,324,510
人件費	3,547,848,000	3,582,408,202	-34,560,202
教育研究費	4,003,372,000	3,549,011,103	454,360,897
(減価償却費)	(1,028,024,000)	(1,009,111,418)	(18,912,582)
管理経費	3,297,006,000	3,176,365,285	120,640,715
(減価償却費)	(57,805,000)	(82,198,831)	(-24,393,831)
徴収不能額等	0	5,116,900	-5,116,900
教育活動収支差額	2,636,164,000	2,705,799,467	-69,635,467
教育活動外収支			
収入	337,000	673,211,370	-672,874,370
支出	620,000,000	577,920,687	42,079,313
経常収支差額	2,016,501,000	2,801,090,150	-784,589,150
特別収支			
収入	0	6,770,270	-6,770,270
支出	0	23,412,702	-23,412,702
基本金組入前当年度収支差額	2,016,501,000	2,784,447,718	-767,946,718
基本金組入額・取崩額	0	-513,430,098	513,430,098
当年度収支差額	2,016,501,000	2,271,017,620	-254,516,620

※ () 内は、内数

損益計算書

収益事業

令和5年4月1日 から

令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 令和5年度
売上高	460,994,511
売上原価・販売費及び一般管理費	277,162,938
営業利益	183,831,573
営業外収益	2,287
営業外費用	24,048,802
経常利益	159,785,058
特別利益	1,828,600
特別損失	64,328,504
学校会計繰入前利益	97,285,154
当期純利益	-575,362,805

貸借対照表

公益・収益合算

令和6年3月31日

(単位：円)

	公益事業	収益事業	合計
資産合計	232,509,613,641	8,345,281,591	240,854,895,232
固定資産	213,546,973,656	7,861,078,576	221,408,052,232
流動資産	18,962,639,985	484,203,015	19,446,843,000
負債合計	41,158,029,557	273,276,487	41,431,306,044
固定負債	652,728,400	0	652,728,400
流動負債	40,505,301,157	273,276,487	40,778,577,644
(前受金)	(9,830,657,645)	(272,521,509)	(10,103,179,154)
純資産合計	191,351,584,084	8,072,005,104	199,423,589,188
公益事業勘定	0	26,685,652,984	26,685,652,984
基本金	211,638,755,496	0	211,638,755,496
消費差額累計または繰越利益	-20,287,171,412	-18,613,647,880	-38,900,819,292
(当期収支)	(2,784,447,718)	(0)	(2,784,447,718)
(当期利益)	(2,271,017,620)	(-575,362,805)	(1,695,654,815)
負債・純資産合計	232,509,613,641	8,345,281,591	240,854,895,232

※ () 内は、内数

財産目録

令和6年3月31日

(単位：円)

	価 格
基本財産	183,712,562,210
校地	162,023,619,593
校舎	8,033,059,725
その他の土地	9,464,193,542
その他の建物及び設備	3,128,488,374
教具・校具・什器備品	1,063,200,976
運用財産	57,142,333,022
現金	7,713,149
預金	20,364,352,920
その他	36,770,266,953
負債	41,431,306,044
固定負債	652,728,400
流動負債	40,778,577,644
正味資産	199,423,589,188

監査報告書

令和6年5月31日

学校法人21世紀アカデミア
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人21世紀アカデミア

監事 高野善生

監事 西村 実

私たちは、学校法人21世紀アカデミアの監事として、私立学校法第37条第4項および寄附行為第18条の定めに基づいて、同学園の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）における財産目録および計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、および収益事業に係る貸借対照表、損益計算書）を含め、学校法人の業務および財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務および財産に関する不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

自己点検結果(評価対象年度:令和4年度/評価年度:令和5年度)

本校では、学期末毎に行う学生アンケートを基に授業内容や設備投資などの改善・改良の指標としてまいりました。平成24年度からは文部科学省『専修学校における学校評価ガイドライン』を参考に評価項目を設定し、多岐に渡る着目点から点検することでの自己評価を提示に至っております。今後は、この学校自己評価の結果を活かし、更なる教育の質の向上をはかってまいります。

評価ポイント (5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切)

(③ → ④ は改善がはかれたとの評価 ④ → ③ は改悪となったとの評価)

自己点検の項目ごとの評価ポイントです

基準1 教育理念目的・育成人材等	自己評価				修正	
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	⑤	④	3	2	1	
1-2 学校の特色は何か	⑤	④	3	2	1	
1-3 学校の将来構想を抱えているか	⑤	④	3	2	1	
<p>学校の綱領は以下の通り明確にしている。 ○○学校の教育理念 「これから加速していく「第四次産業革命」、「人工知能革命」による市場、産業、社会の変化は、人材に求められる能力を、根本から変えていきます。その結果、これまでの「偏差値教育」で優秀と言われてきた人材も、AIに仕事を奪われることとなります。この変革の嵐の中で、単に「知識」を教え、「学士」の資格を与えるだけの「大学」は、その存在意義を問われることとなります。一方で、それぞれの専門分野で、しっかりとしたスキルを身につけることのできる「専門学校」は、これからの時代に新たな注目を集めるでしょう。「21世紀アカデミア」は、2023年4月に、富士河口湖畔に「ファイブ・スター・プロフェッショナル研究所 (Institute for Five Stars Professional, 略称IFIS[アイフィス])」を設立しました。この研究所では、学生が「5つのプロフェッショナル力」を身につけるための、様々なカリキュラムの開発と普及を進めています。その願いを込め、我々は、「21世紀アカデミア」への進化の道を選びました。我々がめざすのは、「大学も専門学校も超える新たな学びの場」の創造です。」 ○○学校の教育目的・育成人材像 専門分野の「エキスパート・スキル」だけでなく、同時に、「5つのプロフェッショナル力」を身につけ、希望する企業や業界に「就職」することだけでなく、その就職した企業や業界で、「活躍」する人材になること。 また、福岡市の経済の中心地、九州の交通の拠点でもある博多駅前の立地も特色としてあげられる。JRを始めバス等のアクセスの良さは通学の利便性はもちろん、就職活動にも効果を発揮している。 学園の綱領(建学の理念、教育理念、教育目標、経営理念、経営目標)を踏まえ教育改革の推進と産学協同による実践的な教育の更なる質の向上を目指すとともに学校運営の安定を図って行きたい。</p>						

基準2 学校運営	自己評価				修正評価	
2-4 運営方針は定められているか	5	④	3	2	1	
2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1	
2-7 人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか	⑤	④	3	2	1	改悪
2-8 意思決定システムは確立されているか	5	④	3	2	1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	
<p>毎年度、当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知される。日常業務においては、エリアを超えた系統会議があり、募集活動や教育活動の報告、随時見直し検討が成されていく。事業計画は年度毎に各学校で作成される。これらは理事長、校長ほか理事の承認を得て、年度当初の各校全体会議において教職員に発表され周知される。また、上記を要約した「事業計画」や「事業報告書」は毎年度末の理事会で決議した上で、私立学校法に従い5月末に整備し関係者から要請があった場合、閲覧に供している。運営組織については「組織図」において明確に示されている。学務部、広報部、事務局の各セクションは、常に業務計画に従ってそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携し機能している。「理事会」と「評議員会」は学校法人運営について定めた「21世紀アカデミア審判行為」により、また責任者会議や各セクション会議など主要な会議はその他の規定により明確に位置づけられ定期的に開催し、それぞれの議案の審議にあっている。以上のような組織運営体制は長年の実績があり、効率的であると判断出来る。教職員の就業および給与等の事項は、就業規則や給与規定において明確に定められている。年俸制の取り入れを行い、残業等のみなし残業時間の対応など、新たな給与システムの導入を図り、労基に定められた年間5日以上の有給取得を義務化。教員の専門性については、採用時に精査しているが、経年変化による教育効果の把握が課題で、今後は実績についての本人の申告、資格取得、研修受講、校内の授業評価、学校運営への貢献度等により定期的に個人面談を含め、十分把握出来るシステムを導入。「組織図」によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は各セクションの責任者に於いて文書化。それらは、学校長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や新規案件、大規模な変更があった事項等は、稟議システムで具申し、検討を重ねて学園本部に付議され、結果が関係者に周知される。情報システムについては、学園基幹システムの構築と運用サポート全般を担うセクションを設け、学籍・成績・出欠・学費等を統括管理する学生管理システムを独自に構築している。学校管理業務用には給与管理システム、財務管理等も整備し、業務の効率化を図っている。</p>						

基準3 教育活動	自己評価	修正評価
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	5 ④ 3 2 1	
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	⑤ 4 ③ 2 1	改善
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5 ④ ③ 2 1	改善
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けられているか	5 ④ 3 2 1	
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	5 ④ 3 2 1	
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	5 ④ 3 2 1	
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5 4 ③ 2 1	
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5 ④ 3 2 1	
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5 ④ 3 2 1	

業界ニーズの把握については、就職担当者を始め、教科担当者が学科目標を業界・企業に直接働きかけ、意見をヒアリングし、キャリアリーダーや学務責任者がそれぞれカリキュラムに反映させるようにしている。各学科の修業年限に対応した教育レベルは校長、キャリアリーダー、学科責任者により設定され、学科会議等を通じて教員間で共有されている。その情報は、各教科の到達レベル設定に反映される。カリキュラムについては、校長、キャリアリーダー、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また、毎年見直しを行い業界の動向に沿った形で改編し、業界の求める人材ニーズを見据えた教育の方向性を見出している。カリキュラム編成にあたっては、「専門学校設置基準」に基づき、各専攻とも授業実施時間数、期間、総時間数を設定している。演習科目については必要に応じて講義科目での解説時間を設けた上で配分している。現状業界の入り口に立つための教育レベルは明確に設定されているが、今後は各種業界で、より即戦力・即著名になるような質の向上を図っていかねばならない。専門スキルだけではなく、コミュニケーションスキルなど就職後に活躍できるための力を身につける必要がある。キャリア(就職指導部)を軸とした25年教育のストーリーを設定し、体系的編成の実施が必要である。授業シラバスについては、すべての科目について作成している。講師会等を通じて学科ごとの目標と指導内容、指導方法、評価方法も明確にしている。さらに全教科の授業1コマ毎のシラバスを「コマシラバス」と呼んで、目的・内容・到達目標を学科毎に責任者に提出する体制を整えている。カリキュラムは時代・業界が著しく変化の中で、毎年を設定を変化させていくことが必要。キャリア教育科目を1年次より導入し、学科目標については、業界のセミナーを年数回、実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。全学科キャリア形成を見た上でのカリキュラム・教育方法を検討し、実施している。学生による授業評価は、前期と後期の年2回、学生アンケートにより実施している。また、校長、キャリアリーダー、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって、授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし、授業改善に利用している。教員については担当する学科、専攻、担当科目に応じて、専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し、教員のレベルアップを図っている。人権研修を定期的に行うことで、教員が学生に対する触れ合い方を確認し、過度な指導に入り過ぎないよう、また、悩んでいる学生に適切な声かけができるような指導者づくりを心掛けている。成績評価・単位認定基準は明確に決まっており、学則や教員配布用の学校運営マニュアルに示されている。それに全学生に配布される「学習の手引き」にも詳細が記載されている。ビジネス校、観光校に於いては、資格・検定の取得の必要に応じて、学科ごとの目標としての必修検定・資格を設定している。資格の取得サポートに関しては、対策講座を実施している。

学校名が変更となり、新たな教育理念の浸透を教員へ実施し、新たにカリキュラムへ反映させる必要がある。

基準4 教育成果	自己評価	修正評価
4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5 ④ 3 2 1	
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5 4 ③ 2 1	
4-21 退学率の低減が図られているか	5 ④ 3 2 1	
4-22 卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ ③ 2 1	改善

就職希望者の就職率は、4校では、ほぼ9割を超えており、学科専攻の学習内容、学生状況に応じた就職活動支援体制を整えている。担任と就職担当者が常に連携を取り、学生の就職活動をサポートすると同時に、進路ガイダンス、学内企業説明会、学内選考試験、面接試験対策・筆記試験対策・就職支援期間による学内ガイダンスなど就職支援行事を計画的に実施している。6年前より実施している業界EXPO等で、各校ともに就職率が大幅にアップした。資格取得の向上策として、試験受験時期に合わせ、全カリキュラムを対策にテーマ変更。必須科目以外でも選択授業で定期・不定期で検定取得のための対策講座を、無料で実施している。退学率については、出席不良者・成績不良者に対し年間を通じて補修・補講の体制や担任による欠席指導・学生のカウンセリング体制も整えている。基本的に無断欠席した場合は、担任が学生及び家庭に電話連絡を行っており、授業についていけない学生の補講や単位取得が難しい学生の補修体制も長期休暇中を中心に実施している。保護者との連絡も担任を通じて密に取るようにしており、保護者会、個別相談等を通じて家庭でのバックアップ体制のサポートも行っている卒業生が就職している企業訪問を重要視し、定期的に訪問を行って情報を収集している。

基準5 学生支援	自己評価				修正評価	
5-23 就職に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	改悪
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5	4	③	2	1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	④	③	2	1	
5-27 保護者と適切に提携しているか	5	④	3	2	1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5	4	③	2	1	

就職支援については、キャリア担当者が、年間を通じ学内企業説明会や学生への個別指導を実施している。なお、1年次よりキャリア教科目を全学科、全専攻履修するなど万全の支援体制を整えている。学生が抱える諸問題の解決に向けて教員研修として「カウンセリングスキル」を習得する為を実施するなど、学生相談体制の構築に日々努力している。精神的理由における退学理由が多いため、毎週2日間、心理カウンセラーの先生に来て頂いて、学生の心のケアが行える部屋を設置している。利用者は日に日に増えている現状がある。本校では、学生サポートチーム制を設け、日々の学生の出席状況、学習状況を常に把握すると同時に、定期・不定期で彼らの学生生活におけるあらゆる相談に応じる体制を整えている。学費の支払い方法の細かな相談体制を強化し、国からの給付型・貸与型の奨学金などが充実したことで、経済的な面での退学者は減少している。各種奨学金制度の学内案内・書類の取りまとめを実施し、奨学金担当者も常時配置している。

また、できる限り専門技術が発揮出来るアルバイトやインターンの紹介・指導を行っている。健康管理面においては、毎年1回の定期健康診断を実施し、疾病等の早期発見、早期の健康指導に動いている。学生の健康を支援する為に「保健室」を設置して、軽度の疾病については対応出来る体制を整えている。留学生については学費、アルバイト、日常生活、就職などの諸問題について支援する留学生担当者をおいている。

学生寮に関しては、学校専用ではないが学生寮保有業者や信頼のおけるマンション斡旋業者と提携しており、遠隔地の入学希望者に対応している。時には、学生サポートチームが寮を訪問し、管理人を通じて学生の状況把握を行っている。保護者との連携については、担任を中心に、保護者会や授業体験を積極的に実施している。学校の運営や学生状況の共有を図っており、必要に応じて保護者との個人面談も実施している。その結果、保護者会参加者の満足度は高いと思われる。卒業生支援として、既卒者対象求人情報の提供や進路相談は随時実施している。

基準6 教育環境	自己評価				修正評価	
6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	④	3	2	1	
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	⑤	4	3	2	1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	

施設・設備は、実習教室を始め、すべての教育環境の見直しを年1回行っている。設備投資に関しては、事業計画(学校計画)に基づいて議論される。教育理念・教育目標、それを具現化したカリキュラムに沿った投資計画でなければならない。学校毎の協議を経て、最終的に「理事会」で決着承認される。施設・設備の更新に関しては計画を立て、進捗状況を把握して計画通りに進んでいる事を確認して、計画の立案と実施体制を整えている。企業及び提携期間と連携しながら、学外実習、インターンシップ、海外研修等の体制を整備・実施している。授業・研修等の実施前後に実施要領、報告書などを提出させ、カリキュラムや各専攻の目標との整合性を常に確認している。アメリカや韓国への留学生を排出できた。また、語学教育の重要性を説き、アメリカとオンラインによる個別の英会話の授業を開始した。防災については緊急時の体制を消防署の協力のもと、「自主消防隊」を組織化すると共に、必要な書類・機器を定期点検・整備している。なお、C館校舎に関して、旧耐震の建物であったことから、平成27年3月に耐力不足を補う耐震工事を行っている。

基準7 学生の募集と受け入れ	自己評価				修正評価	
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1	
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	4	③	2	1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5	④	3	2	1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	

本校の学生募集活動の基本は、学習内容・教育成果・卒業後の進路などの正しい情報を分かり易く伝えることに重きを置いている。また、より深い理解のもとで進路を考えてもらうためにオープンキャンパスや説明会を実施。オンライン等の対応もコロナ禍以降継続して行っている。会場や高校での説明会がコロナ禍以前の回数に回復しつつある。入学選考については、高等学校の調査書に重きを置き、入学要項にその旨記載している。入学前授業に於いて入学希望者との時間を設けることで進路に対するミスマッチは防げていると思われる。

学納金については、理事会、評議員会において設備・機材・人材などの教育環境の維持向上に必要な妥当であるか審議し決定している。

基準8 財務	自己評価	修正評価
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5 ④ 3 2 1	
8-37 予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5 ④ 3 2 1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤ ④ 3 2 1	改悪
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	5 ④ 3 2 1	

学校全体での7年程度の財政状況の把握に努めている。毎年、剰余金を出すことで、自己資本比率を高め、基本金組入れ等を行い安定した学校法人会計を目指している。財政基盤の安定を判断する目安としてキャッシュフローの推移を参考にしている。中長期的な観点で、人件費や設備投資などビジョンを持って取り組んでいく必要がある。収支を図る上で、学生数の推移が収入に大きく影響することから、安定した学生数確保が財務基盤のポイントになると思われる。予算残高は、必要な科目について当該担当者が把握できるよう稟議制度とともにシステムが構築されており、逐次、発生する問題箇所は改善が加えられ、現在の強いシステムに至っている。予算については、各種規定に定められている。予算執行・予算管理システム・稟議制度については相当期間の実績を踏まえ実施されてきており、現状では満足いくものである。収入減が生じるようであれば、人件費や一般経費などの見直しを行い、至急の手立てを図ることで、授業運営上の不具合が生じないようにしている。予算は消費するものでなく、需要を創るという観点に立ち予算執行を行っている。税理士法人の公認会計士による監査は適時実施、会計監査は毎年度実施している。現預金・現金等価物・新規資産・固定資産とある中で、学校運営の基本となる現預金の動きを一番の強化事項として実施している。また、法律改正等を踏まえて、適正に判断されているかを確認するため、日々の監査がおろそかにならないよう学校会計基準との連携を図っている。私立学校法に基づく財務諸表の公開については、平成26年以降、私立学校法の規程に従い、ホームページで公開している。

基準9 法令等の遵守	自己評価	修正評価
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5 ④ 3 2 1	
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5 ④ 3 2 1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5 ④ 3 2 1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	⑤ 4 3 2 1	

総合事務局が法令遵守についての総合的な管理にあたっており、学校に関わる法令は多岐にわたるが、顧問弁護士と契約し、法解釈等、不明な事案は随時相談可能となっている。また、各種行政指導や所轄長からの通知などは、各部署に回覧し、周知するとともに、重要な案件については対応を協議している。平成17年4月に「プライバシーポリシー」、「個人情報の取扱いについて」を策定した。学内の体制としては「個人情報保護規則」を作成し、教職員に対して説明会を実施した。また、新採用の際と新年度に於ける講師契約の際は、「個人情報取扱いについての取り決め」を交わし、個人情報の漏洩、紛失、改ざんがなされないことを確認している。法人内にコンプライアンス委員会を設け、教職員が各種ハラスメント対策に対処しやすい職場環境を整えている。自己点検・自己評価は平成24年度から実施しており、毎年行う事で点検評価を改善に役立てていきたい。自己点検・自己評価結果については、学園ホームページで公開している。

基準10 社会貢献	自己評価	修正評価
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	5 ④ ③ 2 1	改悪
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5 4 ③ 2 1	

なお、授業の一環としては、老人ホームや障害者施設などを訪れ、奉仕活動を行うことで、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを意識させ、子供や高齢者、障害者などの社会的弱者救済が自然の行為として捉えられるよう取り組んでいる。山梨県と連携し、富士五湖自然首都圏フォーラム活動の一貫としてサミットを実施。選抜された学生チームがそれぞれのビジョンを首都圏自然フォーラム主催の発表し、最優秀賞チームのビジネスプランは実際に実施される予定。各地区での社会貢献に関わるビジネススキルアップのためのカリキュラム準備が課題。

学校関係者評価(評価対象年度:令和4年度/評価年度:令和5年度)

平成19年6月 学校教育法が一部改正され、学校評価に関する規定が新たに設けられました。本校に於いては、学校計画を立て教育活動を行って参りました。学校関係者や第三者からの評価を受ける体制はありませんでしたが、平成25年8月30日に文部科学省より『職業実践専門課程』の認定に関する規定が公布され、同日より施行されました。それを受け、企業・団体、卒業生や地域の方々の協力のもと、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善と発展に努めています。これは、専門学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としております。

1. 学校関係者評価委員会

学校関係者委員

平田 章裕 氏 社団法人 福岡県洋菓子協会 副理事長／ロンポワン代表 欠席
 後藤 大輔 氏 公認会計士／税理士法人アーク・パートナーズ代表
 荻田 英二 氏 株式会社 荻田商業建築デザイン事務所 代表取締役
 田中 誠二 氏 オリエンタルホテル福岡 総支配人
 小川 倫恵子 氏 アミ・シュプール 代表
 吉塚 正希 氏 株式会社 映像ボックス 代表取締役社長 欠席
 福島 真祐 氏 博多駅前3丁目2区自治会会長
 藤 厚久 氏 福岡県 博多女子高等学校 教諭
 庄部 兼司 氏 株式会社 Tgo エデュケーションアカウント部 ゼネラルマネジャー
 溝江 多佳子 株式会社イクティス 代表取締役社長

学校教職員

藤 弥生 校長(九州デザイナー学院※現福岡デザイナー・アカデミー)
 稲實 洋祐 校長(九州ビジュアルアーツ)・(九州観光専門学校)
 (※現:福岡ビジュアルアーツ・アカデミー/福岡ホスピタリティ・アカデミー)
 渡邊 恵未 校長(九州スクールオブビジネス※現福岡ビジネス・アカデミー)
 有海 慎祐 地区事務局長
 西村 つかさ 事務長(九州デザイナー学院)・(九州観光専門学校)
 (※現:福岡デザイナー・アカデミー/福岡ホスピタリティ・アカデミー)
 田中 稔 事務長(九州ビジュアルアーツ)・(九州スクール・オブ・ビジネス)
 (※現:福岡ビジュアルアーツ・アカデミー/福岡ビジネス・アカデミー)

2. 学校関係者評価について

評価ポイント (5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切)
 (③ → ④は改善がはかれたとの評価 ④ → ③は改善となつたとの評価)
 学校関係者評価の採点項目ごとの平均ポイントです

基準1 教育理念・目的・育成人材等	学校関係者評価	コメント
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	⑤ ④ 3 2 1	●学校名変更を機に改めて教育理念・ビジョンを明確にされている。 ●具体的な将来像の構成がよく考えられている
1-2 学校の特色は何か	⑤ ④ 3 2 1	
1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤ ④ 3 2 1	
基準2 学校運営	学校関係者評価	コメント
2-4 運営方針は定められているか	⑤ ④ 3 2 1	●評価委員会を通じて第三者(学校関係者委員)に情報開示していることが透明性につながっている
2-5 事業計画は定められているか	5 ④ 3 2 1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5 ④ 3 2 1	●学校運営については理解できたがm制度(賃金について)などはわからなかった
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	5 ④ 3 2 1	
2-8 意思決定システムは確立されているか	5 ④ 3 2 1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5 ④ 3 2 1	
	5 ④ 3 2 1	

基準3 教育活動	学校関係者評価	コメント
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	5 ④ 3 2 1	●教員にも新たな方針や施策の意図を明確にした上で共感し、ビジョンが浸透していくことを期待する ●新たな施策を具体化して展開されようとしていると感じる
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5 ④ ③ 2 1	
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5 ④ ③ 2 1	
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	5 ④ 3 2 1	
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	⑤ ④ 3 2 1	
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	5 ④ ③ 2 1	
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5 ④ ③ 2 1	
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5 ④ ③ 2 1	
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5 ④ ③ 2 1	

基準4 教育成果	学校関係者評価	コメント
4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5 ④ ③ 2 1	●退学率という数字だけを軽減することが目的にはなっておらず、退学のその先の学生の人生をフォローする姿勢が見えたような気がした
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5 4 ③ 2 1	
4-21 退学率の低減が図られているか	5 ④ 3 2 1	
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ ③ 2 1	

基準5 学生支援	学校関係者評価	コメント
5-23 就職に関する体制は整備されている	5 ④ 3 2 1	●各方面の体制整備はされている ●専門職以外の一般企業への就職ルートを開拓、斡旋実績などを積み重ねて学校の強みに加われば、入学させる保護者の安心につながるのではないかと
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5 ④ ③ 2 1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5 ④ ③ 2 1	
5-27 保護者と適切に連携しているか	5 4 ③ 2 1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5 4 ③ 2 1	

基準6 教育環境	学校関係者評価	コメント
6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	5 ④ 3 2 1	●十分な予算を確保し、施設・設備など学びの環境を準備している ●設備面では他の専門学校との差別化ができていく状況をどのようにアピールするかが課題だと感じた ●教育指導する先生方や職員の方々の働き方や教育に対する熱い思いなども外へ向けたアピールポイントとして表現できたら学生、保護者も安心するのではないかと
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5 ④ 3 2 1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1	

基準7 学生の募集と受け入れ	学校関係者評価	コメント
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5 ④ 3 2 1	●高校などに対する募集活動がどう行われているか理解することができなかった ●募集時にアナウンスすべき就職に関するアピールポイントが必要と感じた
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5 ④ ③ 2 1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5 ④ 3 2 1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5 ④ ③ 2 1	

基準8 財務	学校関係者評価	コメント
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5 ④ 3 2 1	●人件費について、数字だけの報告でなく、目的を含めた引き上げの説明もあり、透明性のある運営ができていると感じた
8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5 ④ 3 2 1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	5 ④ ③ 2 1	
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	5 ④ 3 2 1	

基準9 法令等の遵守	学校関係者評価	コメント
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5 ④ 3 2 1	●長らく、評価委員会を実施されていることこそ自己点検であり、社会へ適正な学校運営を目指す表れだと感じた
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5 ④ 3 2 1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5 ④ 3 2 1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	5 ④ 3 2 1	

基準10 社会貢献	学校関係者評価	コメント
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	5 ④ ③ 2 1	●具体的な内容がわからなかった
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5 ④ ③ 2 1	

⑩事業報告・その他

【事業報告書】

- コロナウイルス5類への移行
5月にコロナウイルス5類への移行を受け、リモート授業から対面授業への移行を行い、学内イベントにおいても来校を促進できる環境となった。
- 学生募集状況
県内、県外の説明会の開催も徐々に復活し、リモートだけではなく、対面での学生募集が可能となった。体験入学においては、リモートと対面の両方の募集活動を駆使し実施。学校名の変更や学園の教育理念を説明会や体験入学で行うことにより、学園の方針を理解いただけたようである。4校での合計入学者は昨年度よりマイナスとなったが、ビジネス系、観光系の学生数は増加している。
- 設備投資
法令遵守に則り、館内の教室整備を過年度計画で実施。就職活動などはコロナ移行もリモート面接などが取り入れられているため、リモート面接に使用できるブースの設置などを行った学生増加が見られた放送・映画学科、CG映像学科の撮影機材の導入をおこなったが、昨年同様に設備工事のための部材などがコロナ影響により遅れることもあった。
- 業界EXPO開催
昨年度はコロナ禍であり、リモートを中心とした学内開催のイベントに変更したが、リモートと対面の両方にて実施が可能となった。全国姉妹校間での系統別開催となり、多くの企業にご出席いただくことができた。
- アメリカに語学堂を設立、韓国の大学との提携
昨年に引き続きアメリカ、韓国の提携大学への長期・短期留学が実施された。なお、新年度には更に留学先を増やし、積極的に取り組む動きが出てきている。
- 福岡デザイナー・アカデミー（旧：九州デザイナー学院）
産学連携の強化（職業実践専門課程）
博多まちづくり協議会と連携し、イベント一部を実施。また、県内の企業へ向け、学生作品を展示し、直接意見を問われることができるデザイナーズマーケットを実施。学生のポートフォリオ向上へつなげる。
- 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー（旧：九州ビジュアルアーツ）
「社会人としての常識」を学ぶ新たな動画教材を導入。就職を意識させるカリキュラムとなっている。県内の音楽イベント等の実施機会も増え、実践授業にも積極的に出席。学内イベントの実施も可能となり、学校施設を利用したイベントの企画、運営を行なった。
- 福岡ビジネス・アカデミー（旧：九州スクール・オブ・ビジネス）
愛玩動物看護師の国家試験開始、H27年度以降の卒業生の受験が開始となった。入学検討者のニーズに合わせ、入学定員数の変更を行なった。今後も環境の変化に伴った学校運営を行うため、学科の募集停止や定員数の変更を行う予定。
- 福岡ホスピタリティ・アカデミー（旧：九州観光専門学校）
韓国語学科においては、卒業生が提携大学へ進学。コロナ明けに伴い業界就職率の向上が測られた。業界内だけの知識に留まらず、映像編集や動画撮影などのカリキュラムも導入。全国系統姉妹校間で学生のスキルアップ向上のため、コンテスを実施し、優秀な成績を収めている。

《 職業実戦専門課程認定学科 》

職業実践専門課程における認定学科一覧

○ 福岡デザイナー・アカデミー

(旧:九州デザイナー学院)

グラフィックデザイン学科

インテリアデザイン学科

イラストレーション学科

ゲーム・CG学科

マンガ学科

俳優学科

○ 福岡ビジネス・アカデミー

(旧:九州スクール・オブ・ビジネス)

ビューティービジネス学科

ペットビジネス学科

フラワービジネス学科

○ 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー

(旧:九州ビジュアルアーツ)

写真学科

放送・映画学科

CG映像学科

音響学科

声優学科

○ 福岡ホスピタリティ・アカデミー

(旧:九州観光専門学校)

ブライダル学科

エアライン学科

フードクリエイティブ学科(R06年4月学科名変更)

(旧:スイーツ&カフェ学科)

ホテル学科

鉄道サービス学科

以上 4校 19学科

《 理事・役員名簿 》

令和6年6月29日現在(定員数 理事10名 監事2名)

理事長 田坂 広志

理事 植田 宏美

理事 高橋 奈帆

理事 齊藤 浩一

理事 長尾 大樹

理事 木村 新太郎

理事 南野 想

理事 稲場 央人

理事 加藤 尚美

理事 鴨志田 晃

監事 高野 善生

監事 西村 実